

UNI-PEX

カセットデッキユニット

取扱説明書

MUC-100



このたびは、カセットデッキユニットをお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

ご使用の前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。

お読みになったあとは、必ず保存してください。

安全上のご注意

必ずお守りください

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



この記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な注意内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



この記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



この記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



プラグをコンセントから抜く

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がある、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに組込機器の電源を切り、販売店などにご連絡ください。



組込機器の電源プラグをコンセントから抜く

取付作業、及びお手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く

感電の原因となることがあります。



専用機器以外に接続しない

この機器は専用機器に組み込んでご使用いただくように設計されています。専用機器以外に接続すると火災、感電、けがの原因となります。



分解 / 改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。



異物を入れない / 濡らさない

水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源を切り、販売店などにご連絡ください。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。



カセットテープ挿入口に、手をいれない

特にお子様にはご注意ください。けがの原因となることがあります。



取り付ける機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って取り付けてください。



1年に一度くらいは内部の掃除を工事店などにご相談ください。内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については工事店などにご相談ください。

各部の名称と説明

録音ボタン

このボタンを押しますと録音可能な走行方向を確認する動作をした後、録音待機状態となり、録音ボタン上部の録音表示灯（赤）が点灯します。また再生ボタン上部の走行表示灯（緑）が録音可能方向のみ点滅します。録音したい方向の再生ボタンを押した時点で録音が始まります。（P7の録音のしかたをご覧ください。）

停止ボタン

録音、再生、早巻き中のテープを止めるときに押します。

早巻きボタン

このボタンを押しますと矢印の方向にテープが早巻きされます。（又は）再生中にこのボタンを押しますと頭出しができます。P8の一曲頭出しのしかたをご覧ください。

再生ボタン

このボタンを押しますと、矢印の方向に再生を開始し、再生ボタン上部の走行表示灯（緑）が点灯します。

一時停止ボタン

（ポーズボタン）このボタンを押しますと録音、再生中でもその間テープを止めることができ、一時停止ボタン上部の一時停止表示灯（橙）が点灯します。このボタンを再び押しますと録音、再生が再開されます。

カセットホルダー

必ず「PUSH」マーク部を押して確実に閉めてください。

テープカウンター

録音時このカウンターの数字をメモしておくで録音開始時や希望位置をさがしだすのに便利です。

リセットボタン

このボタンを押しますとテープカウンターの数字が“000”に戻ります。

取出しボタン

このボタンを押しますとカセットホルダーが開きテープの挿入、取り出しができます。

ご注意

停止ボタンを押してテープの動作を止めてから押してください。

テープ音量調節つまみ

カセットデッキの音量を調節してください。

テープスピード調節つまみ

カセットテープの再生速度を調節してください。（可変範囲 ±18%）速度調節は再生時のみ可能です。録音時の速度調節はおこなえません。

テープ走行モード選択スイッチ

テープの走行モードを選択するスイッチです（⇒↺↻）の3つのモードから1つ選択します。P9の走行モードについてをご覧ください。

ご注意... DC電源で使用中の電圧低下、及びメカに異常が発生しますと走行表示灯と録音表示灯、一時停止灯が交互に点灯しカセットデッキは動作しません。またテープ走行中に電源スイッチを切ったり、ACプラグを抜いたりバッテリーの電圧が異常に低下した場合、カセットテープが取り出せなくなることがあります。いったん電源スイッチを切り、組込機器のACプラグをコンセントに差すか、新品の乾電池（または満充電のバッテリー）と交換し電源スイッチを入れてカセットテープを取り出してください。

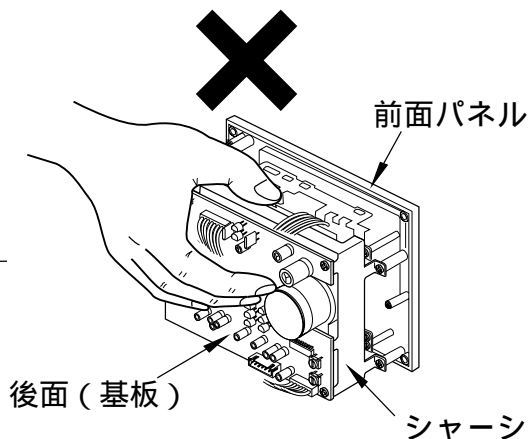
組込方法

⚠ 警告 取付作業をおこなう場合は必ず、組込機器の電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

⚠ 注意

本機を持つときは、前面パネルとシャーシ部以外には触れない。故障の原因になることがあります。

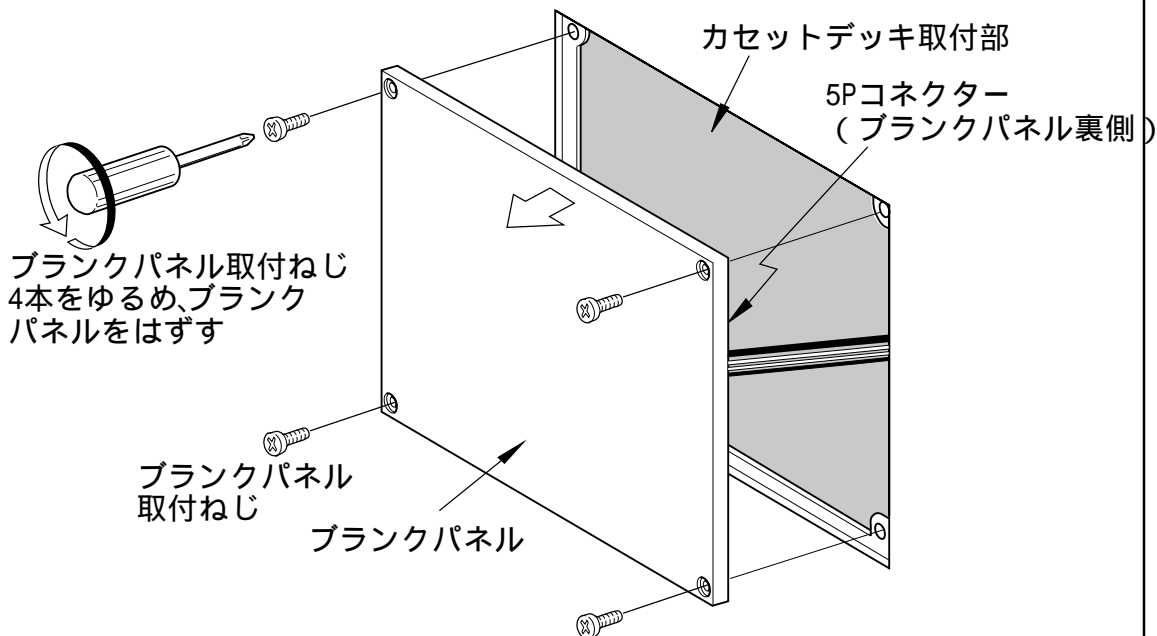
本機を後面の基板部分を下側にして置かない。故障の原因になることがあります。



1. ブランクパネルをはずす

組込機器のカセットデッキユニット取付部のblankパネルをはずし、blankパネルの裏側に差し込まれている5Pコネクターをはずしてください。(図1参照)

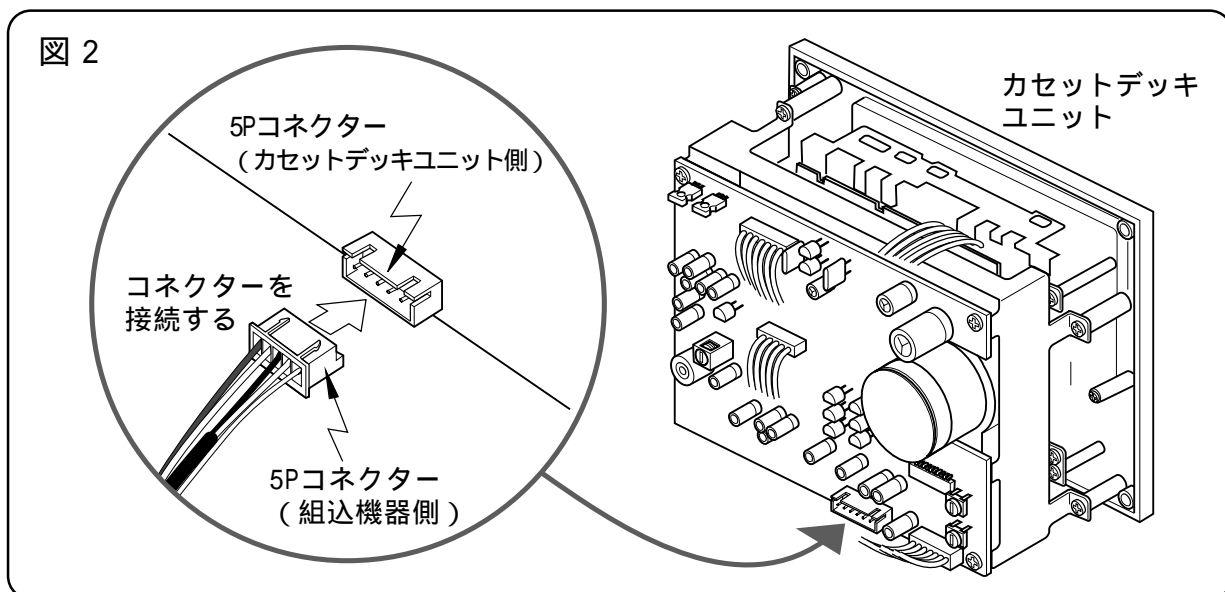
図 1



ご注意…… blankパネルから5Pコネクターをはずす際には、必ずパネル側のロックのツメをはずしてから取りはずしてください。

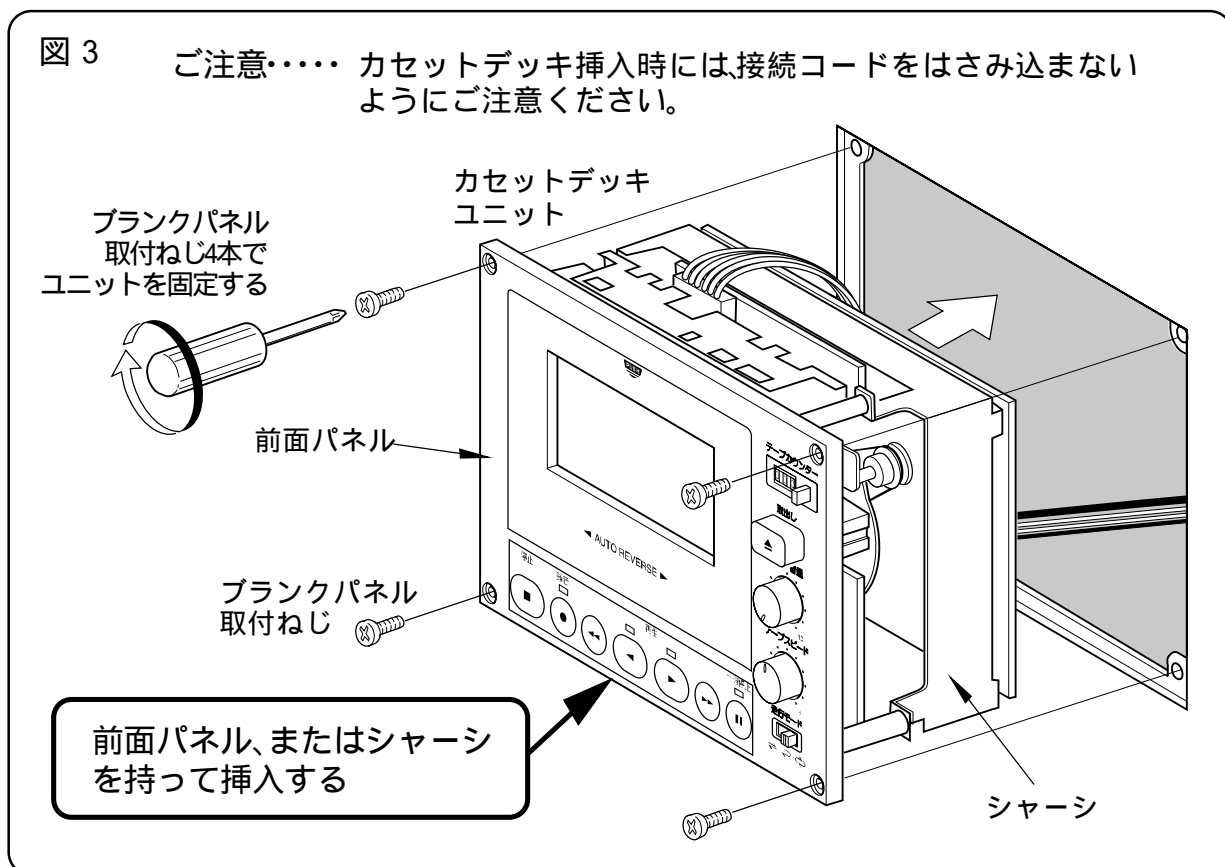
2. コネクターをカセットデッキユニットに接続する

はずした5Pコネクターを本機後面の5Pコネクターに接続してください。(図2参照)



3. カセットデッキユニットを組み込む

本機を組込機器のカセットデッキユニット取付部に挿入し、ブランクパネルを取り付けてあった4本のねじで固定してください。(図3参照)



操作のしかた

⚠注意 電源を入れる前には各音量を最小にする。突然大きな音がでて聴力障害などの原因になることがあります。

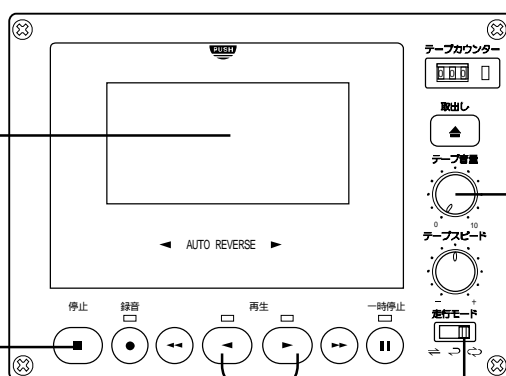
再生のしかた

1. 電源を入れる

組込機器の電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください。

2. テープを挿入する

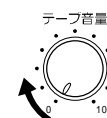
取出しボタンを押してカセットホルダーを開き、テープを挿入後、カセットホルダーの「PUSH」マーク部を押して閉めてください。



6.

再生を止めるときは、停止ボタンを押してください。

5. 音量を調節する



音量をテープ音量調節つまみで調節してください。

3. 走行モードを選択する

テープ走行モード選択スイッチで走行モードを選択してください。(P9の走行モードについてをご覧ください。)

4. 再生ボタンを押す

正方向に再生する場合は ボタンを押します。逆方向に再生する場合は ボタンを押します。テープが再生を開始し、走行表示灯が点灯します。

録音のしかた

1. 電源を入れる

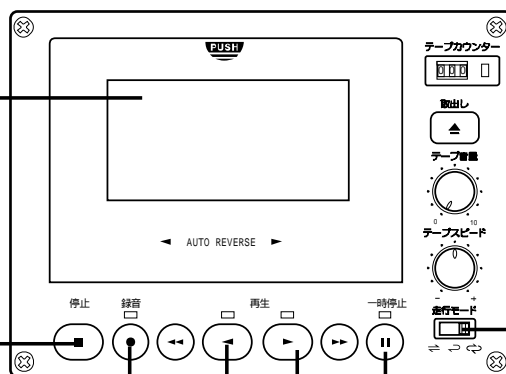
組込機器の電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください。

2. テープを挿入する

取出しボタンを押してカセットホルダーを開き、テープを挿入後、カセットホルダーの「PUSH」マーク部を押して閉めてください。

3. 走行モードを選択する

テープ走行モード選択スイッチで走行モードを選択してください。(P9の走行モードについてをご覧ください。)



8.

録音を止めるときは、停止ボタンを押してください。

5. 録音ボタンを押す

録音ボタンを押しますと、録音可能な走行方向を確認する動作をした後、録音表示灯が点灯、録音可能な方向の走行表示灯が点滅して録音待機状態となります。カセットテープの誤消去防止つめが折られている場合は、その方向の走行表示灯は点滅しません。

注) 録音可能な走行方向の確認動作中は「EJECT」ボタンを押さないでください。また走行表示灯が点滅していない方向の再生ボタンを押しても録音はできません。

4. 一時停止ボタンを押す

一時停止ボタンを押します。一時停止表示灯が点灯します。

7. もう一度一時停止ボタンを押す

一時停止ボタンを押します。一時停止表示灯が消え、録音を開始します。

6. 再生ボタンを押す

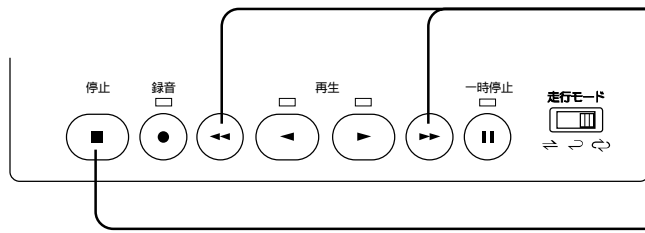
録音を開始したい方向の再生ボタンを押してください。走行表示灯が点灯し、録音待機状態となります。

録音レベルについて

録音レベルは、ある程度の音量の放送内容を録音する場合は問題ありませんが、音量を小さくして録音しますと録音レベルが不足し、再生音量が小さくなることがあります。

特に放送をおこなわないで、録音のみの目的で使用するときは、録音する入力音量調節つまみはなるべく中央付近になるように設定してください。また、スピーカー出力を最小にすることを推奨します。必ず組込機器の取扱説明書もご覧ください。

早巻きのしかた

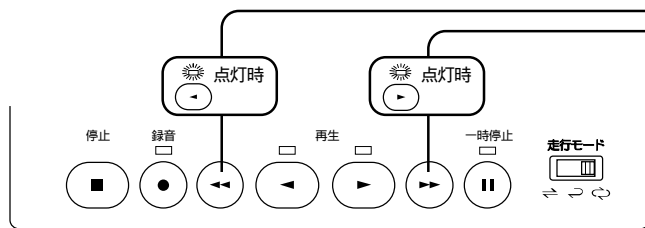


1. 矢印の方向の早巻きボタンを押すと、その方向の早巻きをします。

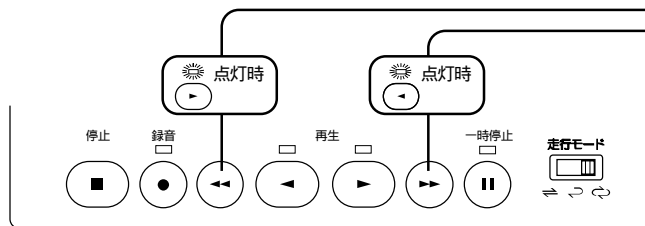
2. 停止ボタンを押すと早巻きが解除されテープが止まります。

一曲頭出し(自動選曲)のしかた

一曲頭出し(自動選曲)とは、録音されている曲間の無録音部分を自動的に検出して、曲の始めから再生する機能です。



1. 今聞いている曲の次の曲の頭出しをする場合再生している方向と同じ矢印の方向の早巻きボタンを押してください。走行方向表示灯が点滅し頭出し状態を示します。次の曲の始めのところで早巻きが解除され再生状態となります。



2. 今聞いている曲の頭出しをする場合再生している方向と反対の矢印の方向の早巻きボタンを押してください。走行方向表示灯が点滅し頭出し状態を示します。その曲の始めのところで早巻きが解除され再生状態となります。

頭出しで再生待機状態にするには

再生中に一時停止ボタンを押して再生待機状態にしてから、上記の1又は2の操作をおこなってください。

一曲頭出しの録音のしかた

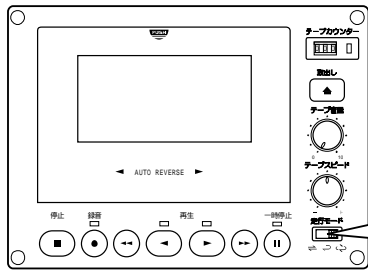
一曲頭出し再生をするためには曲と曲の間に3秒以上の無録音部分が必要です。




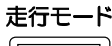


ご注意.. 次のような録音状態のテープは頭出しが正常に動作せず、曲の頭でテープが止まらなかったり、曲の途中で止まったりしますので特にご注意ください。

- 曲と曲の間に会話や雑音が入っている.....止まらない
- 曲と曲の間の無録音部分が短い(3秒以下).....止まらない
- 曲の途中に3秒以上の途切れがある.....曲の途中で止まる
- 弱音の多い音楽や、録音レベルが低いもの.....止まったり、止まらなかったり

走行モードについて

テープの走行モードとして、再生で3モード、録音2モードの中から一つ選択することができます。



- 走行モード** 1. 「」一方向モード
 正方向(), 逆方向() のいずれでも、現在走行している方向のテープエンドで再生(又は録音)を停止するモードです。
- 走行モード** 2. 「」往復モード
 正方向() で再生(又は録音)をしている場合テープエンドで一度反転し逆方向のテープエンドで再生(又は録音)を停止するモードです。逆方向から再生(又は録音)を開始した場合はその方向のテープエンドで再生(又は録音)を停止します。
- 走行モード** 3. 「」エンドレスモード
 再生時に走行方向のテープエンドで反転を繰り返し連続して再生を繰り返します。録音時は往復モードと同じ動作となります。

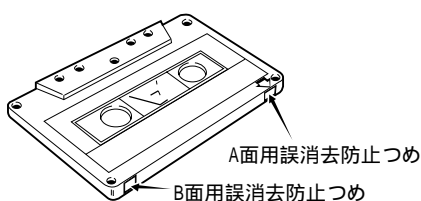
点検方法

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず、故障かな?と思うことがあります。次の要領で点検してみてください。

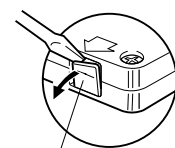
症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	組込機器の電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	組込機器の電源スイッチは入っていますか。	電源スイッチを入れてください。
テープが走行しているのに音がでない。	未録音のカセットテープがセットされていませんか。	確認してください。
	テープ音量調節つまみが「0」になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
前回は録音した音がときどきでる	前回、本機で録音された場合	消去ヘッドを清掃してください。(P10のデッキのお手入れのしかたを参照)その後、録音をやり直してください。
	前回、他機で録音された場合	録音をやり直してください。
音がかすれたり、ふるえたり、また録音がきれいにできない	キャプスタン、ピンチローラー、ヘッドが汚れていませんか。	キャプスタン、ピンチローラー、ヘッド部を清掃してください。(P10のデッキのお手入れのしかたを参照)
	テープが傷んでいませんか。	別のテープと取り換えて問題がなければ、新しいテープと交換してください。
録音ボタンを押しても、このボタンが動作しない。	カセットテープの誤消去防止つめが折り取られていませんか。	誤消去防止つめが折り取られていれば、溝にセロテープを貼ってください。(P10の録音されたテープを誤って消去しないためにを参照)
自動選曲ができない	録音の方法を誤っていませんか。	P8の一曲頭出し(自動選曲)の録音のしかたを参照

カセットテープについて

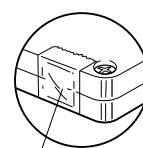
録音されたテープを誤って消去しないために



誤消去を防止するには

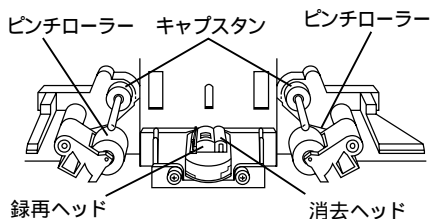


再び録音したいときは



貴重な録音を誤って消さないためにカセットテープには誤消去防止つめが各面用に各1個ついています。このつめを折り取っておきますと、カセットデッキの誤消去防止装置が働いて再録音はできませんので安心です。つめを折り取ったカセットテープを再び録音したいときは、ゼロハンテープなどでつめの穴の上にはってください。再録音が可能になります。

デッキのお手入れのしかた



取出しボタンを押し、カセットホルダーを開きます。

下方にピンチローラー、キャプスタン、録音/再生ヘッド、消去ヘッドが見えます。

綿棒又はやわらかい布でヘッド面やキャプスタン、ピンチローラーを拭き、汚れを取ります。汚れのひどいときは、綿棒又は布に少量のアルコールを浸して拭き取ってください。

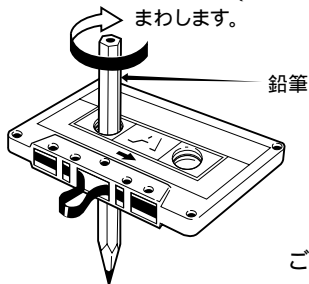
ご注意.....

ヘッド部にドライバー、ペンチなどの鉄類や磁気類を近づけないでください。ヘッドが磁気を帯びますと録音時の雑音の原因になります。ヘッドの清掃は力を入れないでおこなってください。

本機に注油しますと故障の原因になります。絶対に注油しないでください。

テープのたるみについて

テープのたるみのとりかた
鉛筆を外側(矢印方向)へ
まわします。



ご注意.....

カセットテープをデッキに入れる前にテープがたるんでいないことを確かめてください。もし、たるんでいたら六角形の鉛筆などで左図のようにして、たるみをとってください。たるんだまま使用しますとテープが切れたり、伸びたり、巻込んだりしてテープを傷つけることがあります。

カセットテープのリールを手で回してテープをたるませることも絶対しないでください。

テープの巻きが強いときや、巻むらがあるときは、一度早送り又は巻戻しをしてからご使用ください。

高温、多湿の所や磁気のある所(テレビやスピーカーの近くなど)を避けて保管してください。(テープの最適保管条件は湿度50%、気温24 といわれています)

ホコリの多い所での保管はプラスチックケースなどに収めてください。

C-120タイプ(120分用)のカセットテープは、ちょっとした不注意でテープが切れたり、伸びたり、巻込んだりしますのでご使用にならないでください。

エンドレステープの使用について

エンドレステープはテープが巻込み、故障の原因になりますのでご使用にならないでください。

著作権法について

あなたが放送やレコード、その他の録音物から録音したものや、他人の講演などを録音したものは、個人として楽しむなどの他は著作権法上、権利者に無断で使用できません。

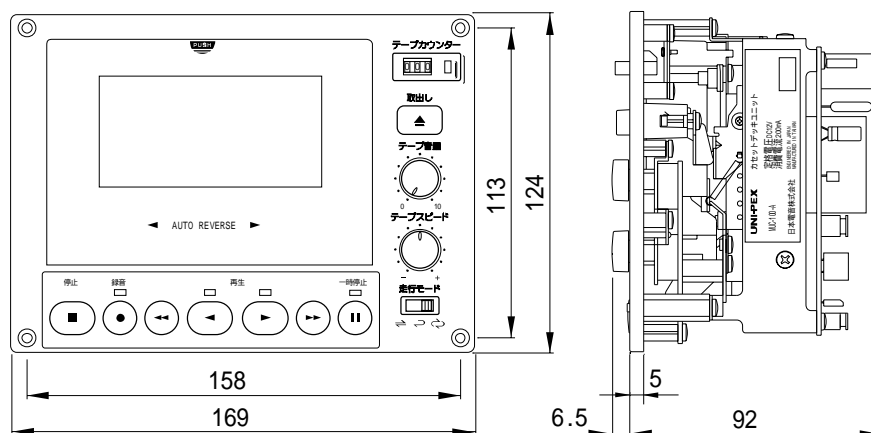
放送コード、レコード、その他の録音物や他人の演奏などは、音楽の歌詞・楽曲と同じく著作権法により保護されています。従って、個人使用の範囲を超えて、それらをテープに録音して、販売・レンタル・譲渡したり、営利のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。

詳しい内容や、著作権物に関する許諾のための手続きについては、「日本音楽著作権協会」(JASRAC)の本部または最寄りの支部にお問い合わせください。

定格

電源電圧	DC12V 組込機器本体より受電
消費電流	再生時 200mA以下
表示	録音：発光ダイオード(赤) / 再生発光ダイオード(緑) / 一時停止：発光ダイオード(黄)
適合テープ	フィリップス形コンパクトカセットテープ (C-120、エンドステープを除く) ノーマルテープ
メカニズム制御方式	フルロジックオートリバースデッキ
周波数特性	125Hz ~ 10kHz (偏差 ± 3dB、再生時)
テープ速度	4.75cm/sec (再生時 ± 18%可変)
ワウ・フラッター	0.25% WRMS 以下
トラック方式	2トラック 1チャンネル
ヘッド構成	録再ヘッド1 消去ヘッド1(ロータリー式)
選曲	前後一曲
早巻き時間	約120秒 (C-60使用時)
録音方式	オートレベル交流バイアス方式
消去方式	交流消去方式
回転部寿命	約1000時間
付帯機能	テープカウンター、テープスピード調節器、一時停止、走行モード選択、音量調節器、オイルダンパー式カセットホルダー
使用温度範囲	0 ~ +40
外装	パネル (ABS樹脂) 黒色半艶塗装
寸法 / 質量	幅169mm 高さ124mm 奥行91mm (つまみ含まず) / 約720g

外観寸法図 (単位：mm)



製造元 日本電音株式会社
 発売元 ユニペック株式会社